

英語的発想法が身につくライティング教科書

高瀬 博

1. 問題提起

「中学、高校、大学と10年間も英語の勉強をしているのに、日本人はどうして流暢な英語が話せないのだろうか？」という声をよく耳にする。従来の文法中心の英語教育のどこに問題があるのだろうか？ そう考えた私は、よく耳にする次の5つの表現を高校2年の生徒たちに英語で表現してもらおうことにした。

(生徒に出題した英作文)

- (1) ストップ 借りすぎ、ご利用は計画的に。
- (2) 定員になりしだい、締め切らせていただきます。
- (3) 本日の受付は終了しました。またのお越しをお待ちしています。
- (4) おかあさん、僕のおしめ、いつとれたの？
- (5) 1人だけ仲間はずれにするのはやめなさい。

すると、どうだろう？ 英文法の時間にstop ~ing と stop to 原形の違いは習得しているはずなのに答えがすらすらと口から出てきた生徒はいなかった。

なぜだろうか？ 文法は理解していても発想法を教えていないから、うまく口から出てこないのではないだろうか？ それなら、どうすれば生徒達に「英語的発想法」を系統立てて指導することができるのだろうか？

(生徒に出題した英作文の解答例)

- (1) Stop borrowing too much. Plan its use.
- (2) We will stop accepting applications as soon as we reach the limit.
- (3) We have stopped accepting applications for today. Please try again.
- (4) Mother, when did I stop using diapers?
- (5) Stop leaving him out of the group.

2. 画期的な「ライティング」教科書との出会い
高等学校で「ライティング」を学習する大きな目

的は、「自分の言いたいことを効果的に相手に伝える能力を身につけること」である。そのためには、文法事項を習得するだけではなく、場面や状況に応じた適切な表現を習得する必要がある。そういった観点から作られたのが、*POLESTAR Writing Course* である(以下『ポールスターW』と表記する)。それではこれから例を挙げながら、その魅力について書くことにしよう。(編集部注:「例」は旧版からです。)

3. 受動態の極意

(例題1) 次の日本語を英語で表現しなさい。

先生: 125ページの練習CとDは宿題です。来週提出するようにしてください。

生徒: ノートに書いて提出するのですか、それともレポート用紙でいいのですか？

(例題2) 次の日本語を英語で表現しなさい。

毎年の健康診断で、彼の視力が衰えているのがわかった。

例題1も、例題2も、『ポールスターW』p.40(編集部注:改訂版ではp.46)の問題である。よく耳にするこの表現の中に大切な英語的発想法がいくつも習得でき、ひとつひとつの例文が精選されている教科書だなと感動した。それでは解答を。(下線は筆者)

(例題1)

先生: Exercises C and D on page 125 are homework assignments. You are required to hand them in next week.

生徒: Are we supposed to do them in a notebook or on a separate sheet of paper?

(例題2)

During the annual physical, his eyesight was found to be getting weaker.

4. 例文から自然に身につく慣用表現

(例題3) 次の日本語を英語で表現しなさい。

「難しかった?」「いいえ、そんな朝めし前だったよ。」

(例題4) 次の日本語を英語で表現しなさい。

「このグリーンのを買ってくれたら、ソックスを2足おまけますよ。」

上記はどちらも『ポールスターW』p.28(改訂版ではp.34)ドリルの問題だ。

例題1では、「朝めし前」を a piece of cake

例題2では、「おまけとして添える」を throw in で表現できるということが自然と身につくように工夫されているのである。ちなみに解答は、

(例題3) “Was it difficult?” “No, it was a piece of cake.”

(例題4) If you buy this green pair, I'll throw in two pairs of socks.

5. パラグラフ・ライティング習得の極意

果たして、英文法を習得し、ある程度の慣用表現を身につければ、少し長くても、まとまった文章を書くことができるのだろうか?

英語の文章(パラグラフ)は、日本語とは異なる論理で構成されている。私たちはまずその構造を知ることが大切なのである。ただ無造作に短文を羅列しただけでは、コミュニケーションに役立つ文章とは言えない。それでは、相手に伝えたいことを効果的に伝えることのできる文章が書けるようになるには何をどのように学習していけばよいのだろうか?

その点に焦点を当てて作られたのがこの『ポールスターW』である。「パラグラフ・ライティング入門」というタイトルで次のような内容を初心者にもわかりやすく説明してあるので、ぜひご一読いただきたい。

入門1・・・「パラグラフって何だろう?」

入門2・・・「主題文はどこにある?」

入門3・・・「つなぎ表現とは?その機能と種類」

入門4・・・「パラグラフができるまで」

6. 充実した大学入試対策

最近の国公立大学の2次試験を見てみると、問題の出題形式は大きく次の3つに分類される。

① 数行ある日本文を英訳するもの。

② 与えられたテーマについて自分の考えを英語で表現するもの。

③ 与えられたエッセイの要約を書くもの。

①については、巻末に「トピック別 Words & Phrases」を設けることにより受験前の最終チェックができるように配慮がなされ、最近増加傾向にある②(愛知教育大、茨城大、岩手大、宇都宮大、大阪大、大阪教育大、小樽商大、香川大、鹿児島大、北九州大、九州大、群馬大、高知大、神戸大など多数の大学で出題)に関してもEXERCISE Cで準備練習ができるようになってきている。

③についても『ポールスターW』の「エッセイと要約」のところを読むことでコツをつかむことができる。

少子化により数年後には、数の上からは高校3年生の数と大学が募集する生徒の数が同じになると報道されている。しかし、だからといって「コミュニケーション能力」を身につける努力を怠ってよいということにはならない。

そこで、この教科書『ポールスターW』では、各レッスンの終わりに、EXERCISESのページを設け、その課で学んだポイントがしっかりと習得できているかどうかを実際の大学入試レベルの問題を使って確認できるようにしているのである。

7. 『ポールスターW』のもう1つの魅力

パラグラフがある程度書けるようになって、それだけで十分なコミュニケーションがとれるわけではない。なぜなら、場面や状況、それに情報を伝える相手に応じたその場その場での適切な表現を使う必要があるからである。

そこで『ポールスターW』では、こうした場合の少し高度な対応策として次の例を挙げている。(ページは改訂版)

(1) レトリック(修辭法) rhetoric p.126

(2) ユーフェミズム(婉曲表現) euphemism p.127

(3) 英語のセクシズム sexism p.128

(4) 句読法 punctuation 裏表紙見返みなさん、魅力のいっぱい詰まった『ポールスターW』、一読の価値は十分あると思いますよ。

(福岡県立香椎高等学校教諭)